

5 . 資源管理型漁業の推進 (モニタリング調査)

5 - 1 . 沖合底魚資源動向調査

志村 健

目的

沖合底魚資源の持続的利用と沖合底びき網漁業の経営安定に資するため、山陰沖における有用資源の資源動向を把握する。

方法

鳥取県の沖合底びき網漁船が所属する地区(賀露、網代、田後) の漁獲月報及び漁船勢力を集計し、漁獲の変動を把握した。

結果

2008 年の本県沖合底引網の地区別漁獲量、金額を集計し、図 1 に示した。

賀露

総漁獲量は 2,017t で、3 地区内で最も少なく、その内訳はアカガレイ 16%、ハタハタ 36%、ソウハチ 13%及びズワイガニ 13%で、この 4 魚種が漁獲の約 8 割を占めている。また、漁獲金額は 11.4 億円であったが、そのうちズワイガニが 44%を占め、以下ハタハタ 15%、アカガレイ 14%、ソウハチ 8%となっている。

網代

総漁獲量は 2,138t でハタハタが 42%、アカガレイが 29%、ズワイガニ 19%でこの 3 魚種が漁獲の約 9 割となっている。また、総漁獲金額は 14.8 億円で、そのうち 45%はズワイガニで以下、アカガレイ 28%、ハタハタ 18%となっており、他の 2 地区に比べ、アカガレイの割合が高い。

田後

総漁獲量は 3,450t でその内訳はズワイガニ 16%ソウハチ 17%、ハタハタ 36%であった。その他にアカガレイ、ヒレグロ、エビ類を漁獲しており、その他の魚種の占める割合も高く、他の 2 地区に比べ多様な魚種を漁獲していることが判る。一方、漁獲金額ではズワイガニの割合が 50%を占め、他の地区同様、非常に高い割合を占めている。

合計

1 月～5 月にかけてハタハタの漁獲が好調であったため 2008 年は 2007 年に比べハタハタの割合が大きく増加 (19 37%) したが、ズワイガニの割合が減少 (21 16%) した。

次に、地区別に魚種別漁獲量、金額の年推移を図 2 に示した。

賀露

1980 年前後に 2,000t から 2,500t を漁獲していたが、その後減少し、2004 年には 1,430t まで落ち込んだが、ハタハタの漁獲量の増加等により、2006 年は 1,995t となった。また、漁獲金額は 1990 年代前後が最も高く、1986 年及び 1991 年に 21 億円を揚げている。しかし、その後は減少傾向にあり、2005 年は 10.9 億円にまで減少した。2008 年はハタハタの金額増加があったもののそれ以外魚種では金額が減少したため、前年より 6 千万円下回る 46.5 億円となった。

網代

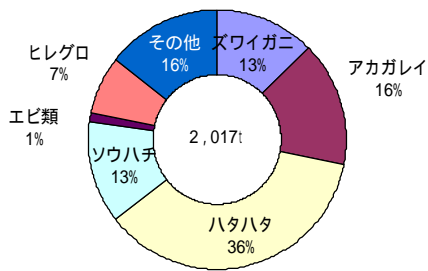
漁獲量は 1981 年の 2,319t をピークに減少し、1986 年には 1,256t まで落ち込んだが、その後は増加傾向にあり、2008 年は 2,138t であった。一方、漁獲金額は賀露と同様に 1990 年前後が高く、1991 年には 21.3 億円を水揚げしている。しかし、その後は減少傾向にあり 2004 年には 12.6 億円にまで減少した。2008 年はハタハタの金額増加があったため親がにの金額減少を補填し、2007 年を 1 千万円上回る 14.8 億円の水揚げとなった。

田後

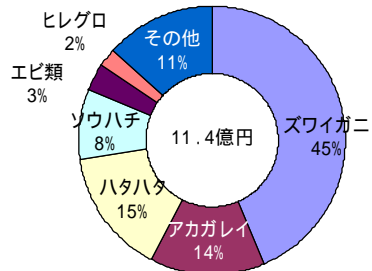
漁獲量は 1990 年前後が最も低く、1985 年には 1,254t まで落ち込んだ。その後は増加傾向にあり、2005 年以降概ね、は 3,000t 程度の漁獲で推移して 2008 年は 3,450t となった。一方、金額は統計を取り始めた 1975 年以降増加傾向にあり、近年は、20 億円程度で推移している。2008 年は親がに及びハタハタの金額増加により、松葉がに、アカガレイ、イカ類の金額減少を補填し、2007 年を若干上回る 20.4 億円の水揚げとなった。

合計

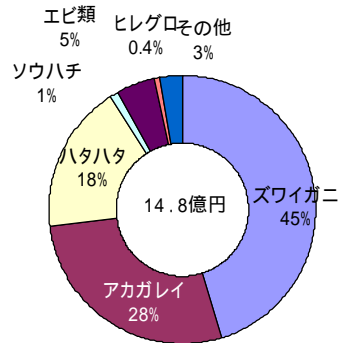
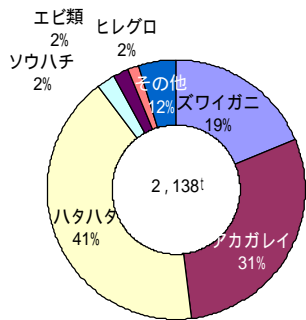
3 地区を合計した総漁獲量は 7,604t (前年比 116%)、総漁獲金額は 46.5 億円 (前年比約 99%) であった。



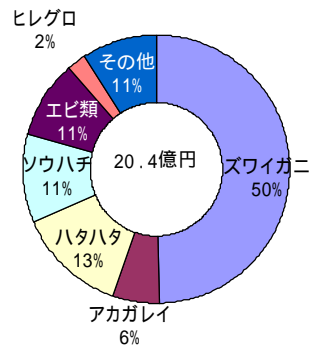
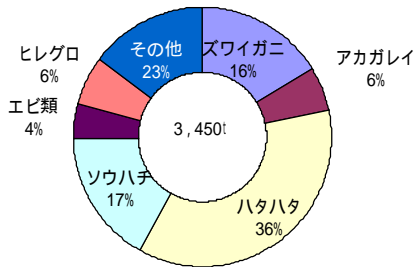
賀露



網代



田後



合計

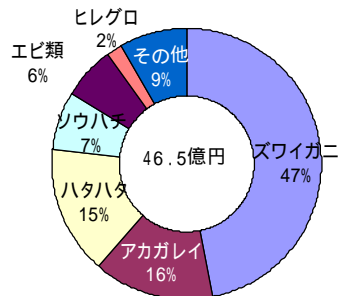
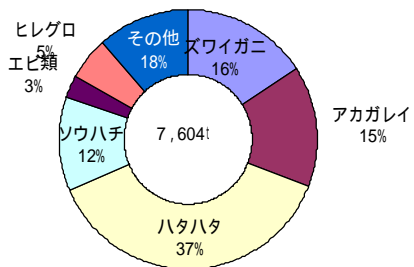


図1 地区別魚種別漁獲量,金額 (2008年)

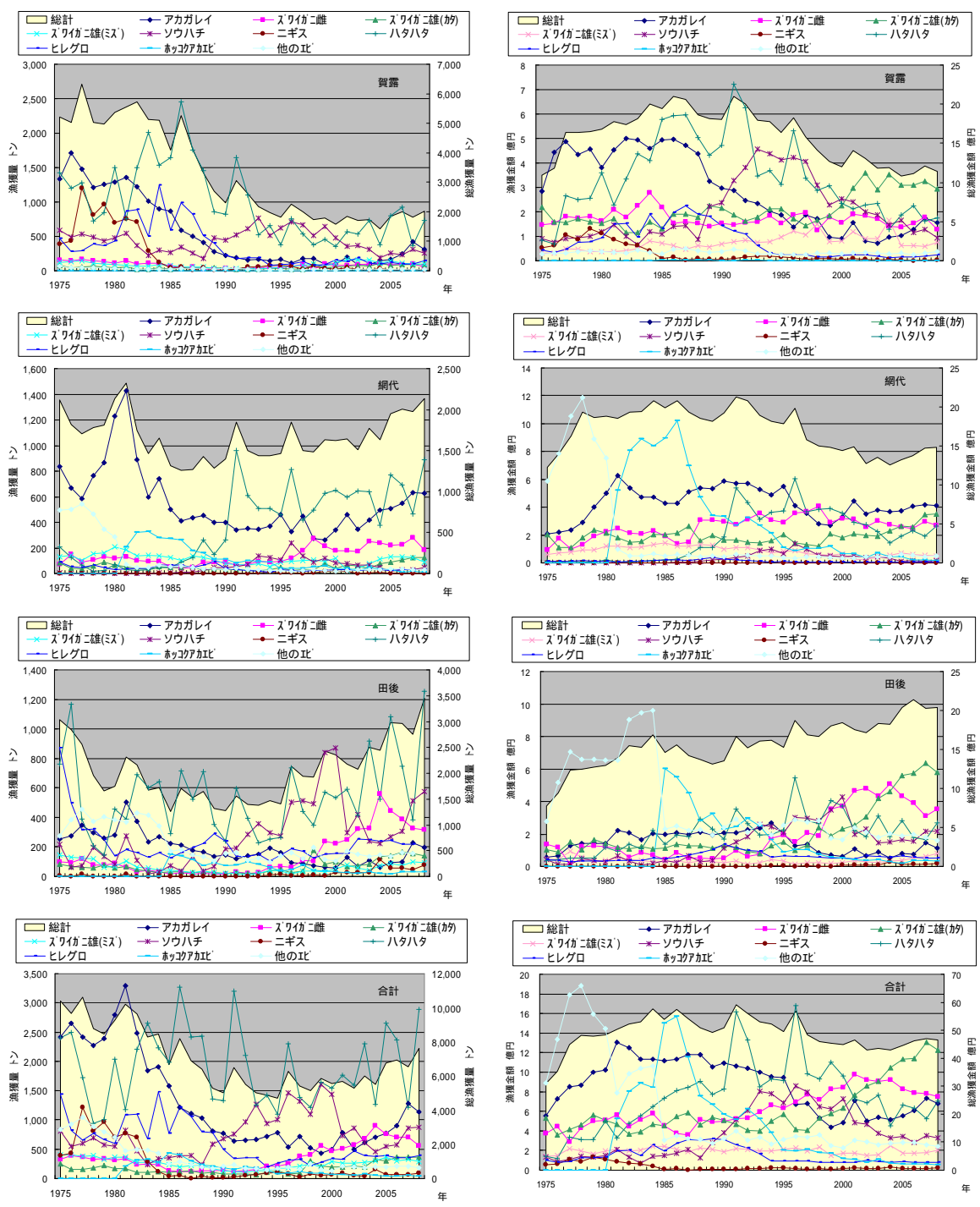


図2 地区別魚種別漁獲量、金額の年推移